

「参考書誌研究」の発刊にあたって

松 下 健 一

図書館のレファレンス・サービスとは何かと聞かれて、答えるまえに一瞬とまどうことがある。ごく普通には、図書館資料を効果的に使えるよう、利用者に助言し、利用を援助することである、といわれる。しかし、実際にはこれ以上の業務をレファレンス・サービスの範囲に含めることもあるし、ずっと限定して考える場合もある。公共図書館との専門図書館とかの館種によっても、サービスの程度に粗密はあろうし、地域的背景によってその焦点がひどく違うこともあるので、一がいに典型的な定義づけをすることは難かしい。だが、このサービスを行なうにあたって、図書館としては、提示された質問に対しできるだけ利用者や図書館・文献資料を有機的に結びつけようとする心構えを持つことが必要であろう。

とはいうものの、利用者は不特定多数、利用の目的・方法は千差万別であり、その分野は無限であるから、レファレンス回答を作成する者の研鑽は果てしなく続く。われわれはそういう努力を続けながら、その努力の成果をお互いに頒ちあえたら、サービスの向上にどんなにか役立つことであろうかと考える。この「参考書誌研究」発刊の動機もそんなところから生れた。サービスのあり方について抽象的な議論は多いが、実例に即した見解の発表は比較的少ない。われわれは実務者の経験から、業務に密着した報告や情報の積上げによってこそ、レファレンス・サービスの質的向上が期待できるものと信じている。

ここに発表される研究ノート、書誌情報、書誌解題、レファレンス事例などは必ずしも完璧なものではないかもしれない。いずれもわれわれが日常レファレンス・サービスを行ないながらまとめ上げたもの、あるいは業務上必要と思われるレファレンス・ツールなどであって、それはそれなりにレファレンスに従事する人達に役立つものと思ひ、あまりに構えることなく気軽に発表するようにした。

もとよりこの誌面を当館職員だけの独占場とする考えはない。館外関係者の積極的な寄稿を歓迎する。そういう相互協力により業務の前進が期待できるならば、これ以上の喜びはない。

(まつした・けんいち：参考書誌部長)